

ながくて幸せのモノサシづくり

今の長久手のまちの姿や暮らしをチェック！～ながくて幸せ実感アンケート結果報告～

平成26年3月に「今の長久手の幸せを測る」をテーマに、「ながくて幸せ実感アンケート」(5,000件配布、有効回収数1,871件、回収率37.4%)を実施しました。今回は、アンケートの主な集計・分析結果と今後の取り組みについてお知らせします。詳細については、経営管理課窓口、市庁舎で報告書を公表していますので、ぜひご覧ください。

「ながくて幸せのモノサシづくり」とは？

「ながくて幸せのモノサシ」とは、長久手のまちづくりが、目指すべき方向に向かって進んでいるのかどうかを、まちで暮らすだれもが確かめられるようにするための**尺度**、**道具**となるものです。

この「モノサシづくり」の取り組みの一環として、「今の長久手の幸せを測る」をテーマに、まちの姿や市民の皆様の暮らしの状況等を確認するために、「ながくて幸せ実感アンケート」を行いました。

「ながくて幸せ実感アンケート」の特徴

ながくて幸せ実感アンケートの取り組みには、有志の市民と若手の市職員で構成する「ながくて幸せ実感調査隊」の協力がありました。調査隊には、質問項目の検討から選定、アンケート結果の分析や活用方法の検討など、約10か月にも及ぶ長期の活動で、知恵を出し合いながら、大いに活躍してもらいました。

市民と市職員が同じ土俵に立って、共に協力しながらアンケートを作り上げたことが大きな特徴でした。

※「ながくて幸せ実感アンケート報告書資料編」に詳細な活動の歩みを掲載しています。

活動を終えた調査隊の声

単なる調査に終わらないで、まちづくりに結び付けていくことが大切。

メンバーが積極的に協力度が思った以上に高く良かった。

市民の方々と接する機会が出来たのが良かった。

会議と会議の間が長くモチベーションが下がる気がした。

女性の参加を増やしたい。特に子育て世代の女性の声を聞く必要があると思った。

一人ひとりの意見を尊重しながら時間をかけて進めたことが良かった。

ミーティングを重ねた今回の活動は「結論ありき」ではなく、大変誠実で充実したもので勉強になった。

市民参画のあり方を模索しているという姿勢が大切だと思う。

市民参画を進めるために信頼のパートナーとして市民がなり得ることをお互いに確認する実験が必要。

若い職員が横断的に部課を越えて集められ、まちづくりに熱心なシニア世代との話し合いの場をつくったことがよかった。

幸せって何だろうと悩むこともあった。

「幸せ」は個人の主観的なモノサシではかられることが多く、それを量るアンケートの作成はとて難しかった。

お互いをニックネームで呼び合うことがよかった。

